

# 風の萌

特定非営利活動法人(NPO)  
在宅ケアを支える診療所・  
市民全国ネットワーク機関紙

第 037 号

2017 年 4 月 20 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

## 八戸プレ大会報告

秋の本大会に向け実行委員会も本格的な活動を入り、準備が着々と進んでいます。

プレ大会が2月4日、4月8日と2回開催され、更にその実感が感じられます。

それぞれのプレ大会は『connect 8 事例検討会』、八戸自由大学と呼ばれ、既に地元中心に活動が行われているものをプレ大会として共催したものです。両活動は共に地域での活動に対し重要な要素をそれぞれ持っています。

2月4日の『connect 8』は月1回の事例検討会とITを活用した情報の共有を行っている地元の医療、看護、介護、福祉関連の勉強の会であり、4月8日の『八戸自由大学』は平成21年から始まった一般市民を対象をしている公開講座で、今回は100回を迎えました。

### はちのへプレ大会 ① 2月4日



2月4日のプレ大会は八戸グランドホテルにおいて開催されました。

すでに地元において活動を行っている地域医療・介護連携『connect 8』（「8」は八戸の「八」の意味）の会合に合わせ、今回は「事例検討会」が行われました。

『connect 8』とはITをベースとした地域の情報共有システムであり、それにより医療・看護・介護にかかわるすべての業種がそれぞれ持っている情報を「いつでも、どこでも、誰もが」得ることのできるという今後の地域包括ケアシステムに関わる重要な地域の一つの方向を具現化したものと言えるものです。

今回はケア・マネをされている白井様により「セルフネグレクト」の事例が紹介され、その事例に

対し「必要な支援とは」についてテーブルディスカッションが行われ、各テーブルからその発表が行われました。重たい事例にも関わらず異業種を交えた活発な議論が交わされました。



事例紹介する白井氏。

#### 【相談の経緯】

通院中の病院の相談員より、内服管理等が必要であるが通院もままならない。自宅も生活環境悪く支援が必要状況である。介護申請しサービス利用を提案しているが拒否。通院も毎月相談員が本人へ連絡し促している。来る時もあれば来ないときもある状況であると相談。

- 歩行:  
独歩 ゆっくりであるが杖などは使用せず移動できている。体調によりふらつき見られる
- 入浴:  
していない
- 食事:  
スーパーから惣菜や菓子類、ジュース等を購入し食べている
- 洗濯:  
洗濯機はあるが使えていない。下着は100円ショップなどで購入し使い捨て。
- 嗜好:  
喫煙 日に10本程度

退院後のAさんに  
どのような支援が必要でしょうか？

事例検討会の終了後、小倉大会長よりミニ・レクチャーが行われ、「地域医療と共生社会」の問題点の提起が行われ、秋の全国大会へ繋げるための声掛けが行われました。

当ネットワークからも3名の理事が参加し、藤村理事から大会の参加と成功への期待を込めた挨拶が行われました。



小倉大会長によるミニレクチャー



## はちのへプレ大会② 4月8日

2月に続き4月8日に開催されました。

今回は『八戸自由大学』主催による第100回記念シンポジウム『自分らしく暮らせるまちづくりを目指して』への共催として開催されました。



### ◆ 第一部 ◆

#### 基調講演：『地域共生社会の実現に向けて』

～誰もが自分らしく暮らせるまちづくりを目指して～



今後の少子高齢化に伴う諸問題の解説が行われ、地域共生社会の必要性及び秋の全国の集いへの参加を呼び掛ける内容でした。

### ◆ 第二部 ◆

#### パネルディスカッション

平間恵美氏 (NPO 法人はちのへ未来ネット)  
石戸育子氏 (公益法人認知症の人と家族の会 青森支部)  
玉澤昭子氏 (子育てはうす)



平間氏(右)



玉澤氏(左)、石戸氏(右)

3名のパネラーによる実体験・活動の発表、及び今回のテーマに関する提案や問題提起が行われ、地域や家族とのかかわり方などについて参加者にとって多くのヒントが得られる内容でした。

この日の小倉大会長は第一部には基調講演、第二部はパネルディスカッションの進行、更にプレ大会後に夕方からは実行委員会の進行という正に「八面六臂」の立ち回りの一日となりました。

## リレー寄稿

前回の徳島県・三好市の村山先生からバトンが宮城県・石巻市の長理事に渡されました。ご存知の通り石巻市は東日本大震災で大きな被害を受けた地域です。「復興」と「地域包括ケア」の2つの重要な問題を抱える意味で他の地域にはない課題を持っています。逆に言えばそれが行政と地域との関わりがより重要な問題として扱われ、「地域包括ケア」の取り組みとして参考にするべき多くのヒントが隠されているとも言えます。今回は、震災後、早く現地に入り、行政と共に取り組んできた長先生からの報告です。

## 「地域包括ケア…地域の現状 ②」 一宮城県・石巻市—



石巻市立病院開成仮診療所  
石巻地域包括ケアセンター所長  
理事 長 純一



## 地域包括ケア推進実施計画と市の最重要政策へ

最大被災地石巻市では、災害で人口も大きく減ったが、今でも復興公営住宅建設他、震災復興に向けて様々な取り組みが行われている。最大時4万人近くの仮設住宅入居者が現在は1万人を切る程度まで減ってきた状況であるが、被災者の課題は心理面や社会的課題が深刻であることが少なくない。

私は、被災地支援に地域包括ケアほかへの取り組み実績が生かせればと佐久病院を退職し、震災後1年の時点で約2千戸の仮設住宅内にプレハブの診療所をしてもらい、医療から被災者支援をはじめて5年が経過した。

開設時より在宅医療連携拠点のモデルをいただき、その後私が提言した地域包括ケアが石巻市の重要政策として位置付けられたため、2013年8月私が所長の包括ケアセンターがつくられ、包括ケア推進室を開設された。また、復興庁の新しい東北先導モデル事業として、「復興の街づくりと地域包括ケア」が採択され、市長・医師会などの参加により、石巻地域包括ケア推進協議会がつくられ、全国に先駆け2014年は地域包

括ケア推進実施計画を策定した。

(詳細は市ホームページ参照)

現在は、内閣府の地域活性化モデルからさらに、地方創生の流れの地域再生計画第一弾に「東日本大震災からの復興の街づくりと被災者を支える地域包括ケアの展開」として選ばれ、行政内部でその遂行に関わっている。

市の地域包括ケア推進の中で、特に在宅医療に関して石巻市医師会として積極的に取り組むということとなった。と同時に、佐久と同じように、医師の教育の機能を持つ医療機関が、地域全体の在宅医療・ケアをバックアップしながら展開するといったことも、特に若い在宅医を増やすという点と、地域全体に24時間365日体制の維持していく意味で有用と考えている。包括ケアセンターとして、在宅医療介護推進事業はもちろんのこと、認知症初期集中事業や人材育成事業など多岐にわたった活動を行っている。東北・被災地においては医師確保は極めて大きな課題(総合診療・地域医療のために医学部が昨年新設されたぐらい)だが、

幸い「東北に総合診療・地域包括ケアを担える医師育成の拠点を」という呼びかけに、筆者以外に医師が6人集まった。教育実績のある指導医4人で3人の3年目の若手を3年間在宅医療を含む指導を開成仮診療所で行ってきたので、私を含め7人の在宅医療ができる医師が集まったこととなる。昨夏再建された市立病院は、引き続き在宅医療も行っているが、これから総合診療・地域包括ケアを遂行できる医師を育成することを目指す病院として活動していく予定である。





## 事業活動の紹介

### 「地域包括ケアの普及に向けて私たちが出来る事」 について アンケート内容紹介

前号において同タイトルについて、担当理事よりの説明と事業の概要を紹介させていただきました。

今号では引き続きその具体的内容について紹介させていただきます。

紹介するのは、この事業の前提となる地域の行政の取り組みについて、担当理事より地元の行政に向けて行っているヒアリング（アンケート）の具体的な質問の内容です。

この内容について、ヒアリングをお願いしなかった各会員におかれましても、今後に当事業活動の皆様への報告が行われた時点において「情報の共有」という意味で何らかの参考となればという思いで事前にお知らせすることにいたしました。

以下が、本ヒアリング内容です。誤解を招かないためにすべて原文からの引用です。殆どの設問において具体的に選択肢が上げられておりますが、その部分は省略させていただきました。（一部の選択肢はそのまま掲載させていただきました）

理事会において、当会の10名の理事がそれぞれの地元において行ったヒアリングの結果が先日の理事会において発表されました。その結果を併記させていただきますが、省略させて頂いた部分については、現在全国の各自治体に対し同様の調査を行っておりますので、その結果が出た時点で改めて報告させていただきます。

#### 問1. 医師会の状況について

- (1) 現在の医師会長が経営する医療機関は、在宅療養支援診療所の届け出や、在宅医療の提供を行っていますか？当てはまるものを1つだけ選んで下さい。
- (2) 過去5年間の医師会長経験者で、在宅療養支援診療所の届け出や、在宅医療の提供を行っていた方はいますか？当てはまるものを1つだけ選んで下さい。
- (3) 医師会内の在宅医療関連の領域を所管する委員会や部会などの会議体はありますか？当てはまるものを1つだけ選んで下さい。

→ 現医師会長の半数が在宅療養支援診療所の届出をしている、(全診療所のうち、在宅療養診療所の届出割合は約16%)

→ 過去5年間の医師会長経験者で在宅医療を行っていた医師が一人でもいた割合は7割である。

→ 調査対象自治体の7割の医師会において在宅医療を所管する会議体が設置されている。また、そのうち約9割が定期的に会議などを開催などを開催している。

#### 問2. 自治体職員の体制について

- (1) 現在、在宅医療・介護連携推進事業を実行するにあたり、どのような部署の担当者が当業務に係わっていますか？当てはまるものを1つだけ選んで下さい。
- (2) 主担当者の医療・介護分野での経験に関して当てはまるものを1つだけ選んで下さい

→ 調査自治体の8割において、既存の介護・高齢者福祉系部署が担当している  
→ 専門部署の新設は約1割に止まっている。

→ 約5割の自治体で専門資格かつ実務経験の職員が主に担当している。  
→ 3年以上の経験者を含めると約7割にのぼる。

### 問3. 在宅医療・介護連携推進事業について

- (1) 各事業の準備または実施状況について当てはまるものを1つだけ選んで下さい。  
※在宅医療・介護連携推進事業のアンケートの8つの取組みについて進捗確認表を用いて確認する。

#### 【選択肢】

- ① 検討に対して未着手である
- ② 検討する体制を整えている
- ③ 現状における地域課題を認識している
- ④ 課題解決に向けた事業案を策定している
- ⑤ 事業を実施している
- ⑥ 実施後に事業評価を行い、PDCA サイクルを回している

省略させていただきました。

- (2) 次の関係団体との程度連携していますか？関係団体との各取組の連携状況について当てはまるものをそれぞれ1つだけ選んで下さい。

|            |                |                    |             |
|------------|----------------|--------------------|-------------|
| 医師会<br>保健所 | 歯科医師会<br>アマネ協会 | 薬剤師会<br>地域包括支援センター | 看護協会<br>その他 |
|------------|----------------|--------------------|-------------|

医師会や自治体の体制が在宅医療連携推進事業の進捗度と相関があることがわかった。

- (3) 課題だと感じていることはありますか？次の選択肢から当てはまるものをすべてお選び下さい。

#### 【選択肢】

- ① 予算の確
- ② 事業実施のためのノウハウの不足
- ③ 本事業の存在や必要性を医療・介護関係者等に認知してもらうこと
- ④ 行政と関係機関（病院、医師会、歯科医師会等）との協力関係の構築
- ⑤ 行政内部の連携、情報共有等
- ⑥ 現状の在宅医療・介護サービスの提供実態が把握できていないこと
- ⑦ 将来的な在宅医療・介護連携推進事業のあるべき姿をイメージできていないこと
- ⑧ 多職種間の協力関係の強化・情報共有の効率化
- ⑨ 関係機関との最終的な合意形成
- ⑩ 地域の医療・介護資源の不足
- ⑪ 事業推進を担う人材の確保（市区町村担当者や事業委託先）
- ⑫ 指標設定等の事業評価のしにくさ
- ⑬ 隣接する市区町村との広域連携の調整
- ⑭ その他
- ⑮ 特になし

「アウトカム指標の設定等といった事業評価」や「予算の確保」が課題であるといった声が多い。

- (4) 外部事業者（調査会社、コンサルティング会社、IT 会社等）への委託状況について、当てはまるものを1つだけ選んで下さい。

4 割の自治体が外部業者に事業を委託している（一部委託を含む）

現在外部事業者に委託していない自治体の全てが今後も「委託する予定はない」と回答。

- (5) 各取組に対して評価指標は設定していますか？当てはまるものを1つだけ選んで下さい。設定している場合は内容について教えて下さい。

9 割の自治体が評価指標を設定できない。

- (6) 各取組と同等の内容を平成 26 年度以前から実施していた項目はありますか？平成 26 年度以前から実施していた項目をすべて選んで下さい。

半数以上の自治体が H26 年度以前から取り組みを開始している。

#### 【選択肢】

- ① 地域の医療・介護の資源の把握
- ② 在宅医療・介護連携の課題と抽出の対応策の検討
- ③ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
- ④ 医療・介護関係者の情報共有の支援
- ⑤ 在宅医療・介護関係者に関する相談支援
- ⑥ 医療・介護関係者の研修
- ⑦ 地域住民への普及啓発
- ⑧ 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

### 問4. 総合事業について

- (1) 新総合事業へ移行したのはいつですか？移行前の場合はいつから予定しているかを教えて下さい。

省略させていただきました。

- (2) 新しい総合事業の実績について教えて下さい。（※平成 28 年 10 月時点）

- (3) 包括的支援事業における認知症対策の取組状況について教えて下さい。

- (4) 生活支援サービスにおけるコーディネーターの配置及び協議体の設置状況について教えて下さい。

# 私の こだわり 『聴くこと』

緩和ケア診療所 いっぽ (群馬県高崎市)  
小笠原 一夫



『小説ばかり読んでます。』

私は 25 年前にペインクリニックを開業しました。痛みのプロとしての自負を持ちあらゆる痛みは薬と神経ブロックとで治せるものと思っていた。しかし、その甘い自信は開業して間もなく打ち砕かれていきました。そのようなもので簡単に治る痛みはきわめて少なく、多くの方はわけのわからぬ痛みを抱えてあちこちを受診した果てにペインクリニックという聞いたこともないようなところにたどり着いたのでした。確かに大病院で診ていた患者さんたちはほとんどがもうすでに診断がついた痛みでした。「三叉神経痛」「帯状疱疹後神経痛」「がん性疼痛」など。しかし街の開業クリニックにやってくる患者さん達は診断がつく方が少ないのです。多くは様々な苦しみを抱え、その一部として、あるいはその苦しみの代替として痛みを訴えている方々でした。それらの患者さんが抱えている困難は私がそれまで聞いたこともないようなものばかりでした。家庭の、勤め先の、人生の様々な困難。私はそれらを聴くことに夢中になりました。孤独な子育てや老人介護、交通事故や医療事故の被害者、引きこもりの子を抱えた親、学校内や企業内でのいじめ、リストラや事業破たん、愛する人を亡くした悲嘆者など……。そしてたどり付いたのは私がそうしたことに関心を向け聴くことによって痛みが軽減するという不思議な体験でした。人はなんてひとりひとり異なった大変な体験をして生きているのだろう、そしてそのことを誰にも言えず孤立して苦しんでい

## 緩和ケア診療所 いっぽ

医師 3 人プラス研修医、看護師 8 人で緩和ケア外来、ペインクリニック外来、在宅ケアを行っています。年間 300 人の緩和ケアに関わり、200 人前後の在宅看取りを行っています。連携施設としてホスピスを持っています。これからの課題はがん患者以外の在宅緩和ケアと施設での看取りに取り組んでいくことです。

る、こうしたことを知ることなしにその人の抱えた痛みを理解することは不可能だと気付いたので。神経ブロックの施行率がどんどん減っていきました。それと反比例して話を聴く時間がどんどん増えていきました。当然稼ぎもどんどん減っていきました。抗うつ剤の効果を知ったのもそのころです。お年寄りが一日中「いたいよーいたいよー。」と叫び続けていても出されるのはロキソニンばかり。認知症の B P S D を学んで薬を出し見違えるような状態になって家族に喜ばれ自分もびっくりしたこともありました。

そうした経験の中で私は「体と心と暮らしを診るホリスティックペインクリニック」という概念を(自分の中で)打ち立てました。「簡易精神療法」「ラポールの形成」「NBM」などの概念はその後になって知ったことです。

現在、主にごがん患者の在宅療養を支える緩和ケア診療所に衣替えをして年間 200 人余りの在宅看取りをしています。がん患者さんの痛みの訴えに対してもこの「体と心と暮らしを診る」視点は欠かさず持ち続けています。がん患者がいたいといえはすぐオピオイドが処方されます。をれでも痛いといえは「モルヒネには天井効果はありません」と、どんどん増量されます。それでも効きません。そんな患者さんが紹介されてきて先ずするのは徹底的に話を聴くことです。サーチライトをゆっくりと回しながらどこにこの人の苦しみの「核」があるのか探るのです。特に在宅だとそこにいろいろな材料が転がっています。家族関係は？経済は？人生の喜びは？別れの悲しみは？この先の不安は？そしてたどり着いてフォーカスが当たった時多くの患者さんは涙を流します。「自分でも気づかなかった苦しみの核が目の前に現れそれによって辛さが氷解していくような体験をする」のではないかと思います。私はその瞬間を追い求めています。医者冥利に尽きる瞬間です。

# 理事会報告

## 2016年度 第1回理事会

開催日時：2017年2月26日（日） 9:10～12:00

開催場所：貸し会議室プラザ八重洲北口

出席理事：秋山 由美子、石田 一美、井村 隆、苛原 実、大石 佳能子、大川 延也、大澤 誠、岡崎 和佳子、  
小倉 和也、桑原 由次、小山 亨、多湖 光宗、長 純一、中嶋 啓子、長縄 伸幸、畑 恒土  
福田 善晴、藤村 淳、村山 善紀、吉井 敦子、吉永 隆行（敬称略）

欠席理事：青木 佳之、太田 秀樹、沖倉 紅児、金井 秀樹、金田 弘子、草場 鉄周、黒岩 卓夫、小林 るつ子、永井 康德、  
西嶋 公子、新田 國夫、萩田 均司、宮坂 圭一、森本 益雄（敬称略）

### ◎「はちのへ大会」実践交流会カテゴリー及び座長の及びカテゴリー別担当理事が決定されました。

これは従来全国大会の座長に関してはその都度理事会において決定しておりました。

しかしながら前年度との継続性も必要とされることから担当座長をお任せする理事が固定化される傾向も出てきたため、「継続性」を維持しつつ「硬直化」を避ける意味で昨年より試行を行ってきた「カテゴリー別担当理事」を設け、各理事はそのどこかに所属することしました。

カテゴリー別座長は今後その「カテゴリー別担当理事」の中で決定されることとなります。

大会ごとに追加されるカテゴリーに関してはその都度対応することになります。

その決定を受け「はちのへ大会」実践交流会担当座長が決定されましたので以下に掲げます。（一部カテゴリーは現在検討中です）

### 実践交流会カテゴリー別 担当理事 及び はちのへ大会 座長名

| カテゴリー名          | 担当理事 |    |    |    | 決定座長名 |
|-----------------|------|----|----|----|-------|
| 1 在宅生活の継続       | 森本   | 小倉 | 井村 | 石田 | 石田    |
| 2 訪問サービス&通所サービス | 青木   | 沖倉 | 吉井 | 岡崎 | (吉井)  |
| 3 緩和ケアと看取り      | 新田   | 宮坂 | 苛原 | 中嶋 | 中嶋啓子  |
| 4 人材育成・教育       | 大石   | 桑原 | 草場 | 長縄 | 長縄    |
| 5 地域で支える認知症ケア   | 村山   | 多胡 | 西嶋 | 大澤 | 村山    |
| 6 口腔ケアと栄養管理     | 小山   | 藤村 | 大川 |    | 大川    |
| 7 これからの地域包括ケア   | 長    | 太田 | 黒岩 |    | 長     |
| 8 新しい試み         | 畑    | 吉永 | 福田 |    | 吉永    |
| 9 薬と生活          | 萩田   | 永井 | 金井 |    | 金井    |
| 10              |      |    |    |    |       |



## 特別養護老人ホーム<おふくろの家>竣工式

～社会福祉法人 淳涌界 設立～

当会の副会長をされている藤村理事が特別養護老人ホームを開設するにあたって、「社会福祉法人 淳涌界」を設立されました。

淳涌界とは、

淳：情が深い、素直、ありのまま

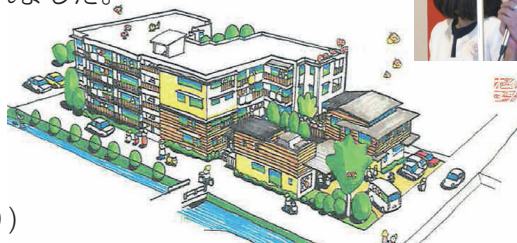
涌：水などが地中から噴き出る

界：区切り、境。限られた社会や範囲

の3つの文字に由来します。(淳涌界 HP より)

これらは施設の理念として「最後まで自分の家で暮らす」が、掲げられており、「おふくろの家は地域における家族の絆を守る砦となり、地域の人々の絆を広げる礎となることを目指します。」と語っています。(パンフレットより)

無事に竣工式を済ませ、これから開設に向けてお忙しくなると思います。東京事務局からも応援しております。おめでとうございます。



### 社会福祉法人 淳涌界

特別養護老人ホーム「おふくろの家」

〒498-0004 弥富市又八 2-128-1

TEL : 0567-67-7201

HP : <http://jyunyukai.jp>



### 活動予定

- |                                               |                                                                                  |                                               |                                                                           |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>第二回理事会</b><br/>平成29年5月21日<br/>場所…東京</p> | <p><b>八戸プレ大会</b><br/>平成29年6月11日<br/>13時～14時30分<br/>場所…八戸ポータルミュージアムはっちーはっちひろば</p> | <p><b>第三回理事会</b><br/>平成29年8月27日<br/>場所…東京</p> | <p><b>大阪プレ大会</b><br/>平成29年8月20日<br/>10時～12時30分<br/>場所…大阪市東成区民センター小ホール</p> |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|

### 八戸プレ大会 ③

#### 市民公開講座

『地域包括ケアにおけるリハビリテーション～新しい役割と位置づけ～』

日時…平成29年6月11日(日)

13:00～14:30(参加無料)

場所…八戸ポータルミュージアムはっちーはっちひろば

講師…はちのへファミリークリニック

院長 小倉和也

## 風の萌

2017年4月20日発行(第037号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)  
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

<http://www.home-care.ne.jp/net/> E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市緑区筥山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

#### 編集後記

発行が遅くなったことをお詫びします。

今号より新企画『私のこだわり』を開始いたしました。堅苦しくない「座右の銘」としてお読みいただければと希望しております。

5月より、はちのへ大会の演題募集を開始いたします。皆様のご登録をお待ちしております。

(東京事務局/犬童)